

副市長レビュー（秋）協議事項調書

1 部局名 (課名)	市民部文化振興担当 (美術館)	
2 協議事項 (案件名)	美術館の施設老朽化にともなう今後の在り方について	
3 背景・現状 (現状把握で きる統計数値 など)	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館は1971年7月のオープンから52年が経過。 ・2011年に新美術館基本構想を策定したが、議会等の了承が得られず、以後白紙となっている。 ・2017年に施設設備の老朽化、取り巻く状況変化への対応として、アセットマネジメント推進課による長寿命化基本方針に基づく大規模改修（築後40年経過時）及びトラックヤード増築を行い、機能改善を図り、現在に至る。 ・展示室の狭小、市民ギャラリー、カフェスペースの未整備、駐車場不足等、市民の多様なニーズに対応できていない現状。 ・2023年5月議会にて、「新美術館構想策定」について黒田議員から問われ、「中・長期的な展望のもと、美術館の在り方を検討する」と市長答弁。 	
4 検討経過・課題	<p>【他都市の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市と同等の人口を有する新潟市、北九州市、熊本市の人口1人当たり に占める施設占有面積、展示室占有面積を比較。 ・《施設》占有面積平均：本市の約2.2倍 (本市人口に換算した場合6,000㎡程度の延べ面積となる) ・《展示室》占有面積平均：本市の約2.5倍(同1,800㎡程度) (浜松市美術館：延べ面積：2,631.02㎡、展示室の延べ面積：676.13㎡) ・基本構想から竣工まで8～10年程度を要する見込み。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化基本方針に示す目標使用年数80年までに新美術館へ移行するた め、必要とする面積規模、建築候補地等整備方針の方向付け。 ・常設展示実施に向けたハード面の改善。 ・収蔵庫が美術館と引佐の遠距離にあるため、より良い管理方法の検討。 	
5-1 方向性の 提案(目指 すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各課と協力体制を構築し、新美術館の規模、機能など、どのような 美術館が浜松市に必要なか検討するもの。 	
5-2 上記の方 向性決定に 向け議論す る事項(妥 当性、必要 性、有効性 など)	<ul style="list-style-type: none"> ・新美術館に関する庁内検討の実施について 	
6 結果	<input checked="" type="checkbox"/> 提案どおり進める <input type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	具体的内容 市全体にとって、最も効果的なも のとなるよう幅広に検討するこ と。
7 その他		